

Ⅲ 東京の強みをいかしたまちづくり

1 世界に進出する東京のものづくり

東京には、高い技術を持ったものづくりの中小企業が集積しており、オンリーワンの技術力で世界から評価されている企業も数多く存在します。今後、こうした東京のものづくり技術の強みを更にいかしていくため、中小企業の方向性や世界に進出する中小企業について紹介します。

◆ これからの中小企業の方向性

日本で最大の企業集積地、東京。その中の実に**9割以上が中小企業**です。
つまり、東京の産業は中小企業が支えているのです。



円高、アジア諸都市の台頭...日本の企業も変革の時を迎えています。
今後、中小企業はどのような方向に向かっていくのでしょうか。

○ 今後の中小企業は ~東京商工会議所に聞く~

今、中小企業は、円高や材料高などの状況に加えて、国内市場が縮小する中、成長著しいアジアの需要を獲得すべく、海外展開を積極的に進めていく時期に差し掛かっています。

グローバル競争に打ち勝つためには、各企業が技術力に磨きをかけることはもとより、企業間連携・産学連携等により、新たな付加価値を創り出していくことが極めて重要です。

もともと日本の企業は飛行機や上水道の整備、スペースシャトルの部品や職人の技が必要となる製品など、量産するよりも精密さや質を求められる産業分野での強みを持っています。今後、海外展開に向けて、それぞれの企業が持つ高い技術をいかした製品を製造することが必要となっていきます。



◆ 世界にはばたくオリジナルブランド

佐藤繊維株式会社は、山形県寒河江市に所在する 1932 年創業の紡績ニット会社です。原料選び、糸づくり、ニット製品製造まで一貫して自社工場で行っており、Made in Japan のものづくりを大切にしています。現在、ファッションのまち渋谷にショールームを構え、世界への販路拡大を進めています。

第 3 回「ものづくり日本大賞」では 製品・技術開発部門で経済産業大臣賞を受賞しました。



資料提供 佐藤繊維(株)

○ これからの中小企業のものづくり ～佐藤繊維株式会社社長に聞く～



佐藤繊維株式会社
佐藤社長

中小企業に求められるものづくりは

日本のものづくりは世界に誇る技術です。ファッションやサービスの水準も高く、日本だからできるものがあります。

中小企業は数で競争してはいけません。トレンドに流されず、付加価値の高いものづくりをしていくために、デザイン、製造、プロモーション、販売までの全ての過程を自社で行っています。



佐藤繊維(株) 東京社屋 1 階
セレクトショップ「ノートルエスカリエ」

地方都市と東京の役割分担は

地方都市でもデザイン、製造、プロモーションはできますが、販売だけは東京でないとできません。国内外に販売するためには交通アクセスが重要で、その点で東京は大変便利です。

海外からみた日本（東京）の位置付けは

10年前のアパレル業界においては、日本のものづくりや技術力についての知名度は低く、他のアジア諸国と同じ位置付けでした。しかし、最近になって海外メディアが日本独自の文化や伝統的な技術についての特集を組むようになり、日本はものづくりの面においても水準の高い国として認識されています。

日本の特集が組まれるようになったのは、日本の経済面以外の特徴に注目が集まってきたためかもしれません。また、有名デザイナーなどの裏方として世界で活躍する日本人も多くなり、少しずつ日本への理解が進んできたこともありますね。



資料提供 佐藤繊維(株)

◆ 積極的に海外展開する中小企業

日本のものづくりを支えてきた製造業についても、世界に発信する企業が増えつつあります。ここでは、東京から世界に進出を果たして第一線で活躍している企業に、その取組や東京との関わりについて語っていただきました。

“振動と騒音のない環境づくりへ”

(免震・防振装置製造 株式会社イーエス 早川社長 本社：墨田区)
震災以降、免震技術には注目が集まっていますが、当社では特許を取得したシステムで美術品の保護や製造設備のBCP対策等、多方面に納入実績を持っています。

東京は世界でトップクラスの性能・品質の技術を持つ企業が多く、長く続く経営パートナーが得られやすいという利点があります。世界的に低コストを武器とする企業が台頭してきている現在の状況に対応していくために、企業間連携と海外の人的ネットワークなどを駆使して製品開発や販売を行っていくつもりです。

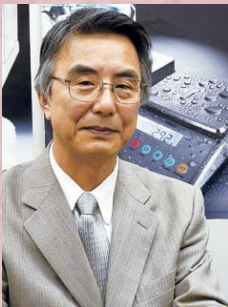


株式会社イーエス 早川社長

“「ここにしかない」高精度計量計測技術で宇宙を見つめる”

(計量機器製造 新光電子株式会社 安西社長 本社：文京区)
グローバルな工業化が進む中で“高品質な製品を継続的に供給できる”企業へのニーズは高まっています。大型光学赤外線望遠鏡「すばる」に採用された当社の音叉センサ技術は、電子天びん・はかり等の計量計測分野での高精度と安定性に貢献し、その製品は、世界中で高く評価されています。

東京は中央行政機関やメーカー本社などが集積しており、情報量の多さという点で拠点を置くメリットは大きいです。この利点をいかしてニーズを踏まえた「独自の技術」を製品として提供していきます。



新光電子株式会社 安西社長

“最先端の「光テクノロジー」で豊かな社会づくり”

(LED照明等光学機器製造 株式会社オプトデザイン 佐藤社長 本社：八王子市)
当社は、LED照明を均一に散光させるパネルの開発でシェアを広げ、電機関連企業との連携を図ってきました。多摩地域に集積するハイレベルな光学技術と産学との結びつきをいかして、高付加価値な製品を提供しています。

東京には多摩地域を始めとした緑の豊かな地域が存在し、自然と調和した伝統産業があります。今後は、LEDと伝統技術の融合したデザイン照明などで自然と共生した製品を提供していきたいと思っています。



株式会社オプトデザイン
佐藤社長



大丸有地区の新事業創造支援拠点「日本創生ビレッジ」

人・モノ・カネ・金融・情報・インフラなどが集まる東京のビジネスセンターである大丸有地区の新丸ビルにおいて、ビジネスマッチングの場づくりが行われています。「日本創生ビレッジ」と名付けられたこの取組の中では、ビジネス開発支援オフィスの提供による IT、ライフサイエンス、エネルギー技術などの中小ベンチャー企業への支援と、経営者、出資者に加え有識者やメディア関係者など約 560 人が交流するビジネスクラブ「東京 21c クラブ」の運営を行っています。これらの取組により大丸有地区発の技術やアイデアを軸とした産業やビジネスイノベーションの創出を模索しています。

“大丸有地区のポテンシャルを活用した実効性のあるマッチングを提供”

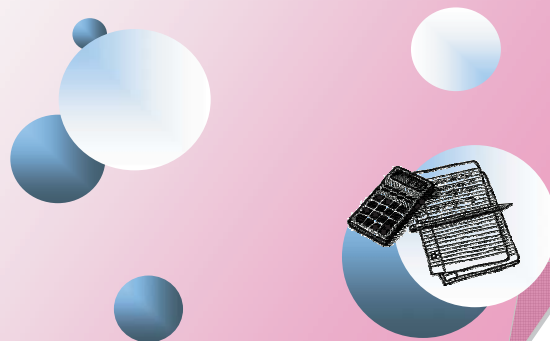
大丸有地区の最大の魅力は、多様な機能が集積していることです。世界を代表する企業に加え、商業施設や美術館、宿泊施設などのアメニティ機能が集積しています。

この高いポテンシャルを有するエリアを舞台に、ビジネスイノベーションを発信する「日本創生ビレッジ」の取組は行われています。2000年に「日本創生ビレッジ」の前身となるビジネス交流の取組が開始されてから、年間約200回を数える交流会や延べ900件を超えるビジネスマッチングの機会を経て（2011年度実績）、これまでに5社が新規株式公開に至るなど、オフィス+ネットワーク提供型のビジネス開発支援の取組の成果が出始めています。

今後、東京21cクラブや支援を受ける企業から広がる人的ネットワーク、さらに日本が強みを持つ技術を活用して、丸の内を世界有数の新事業創造と産業創出の拠点として確立させていきます。同時にこれらの企業が成長していくことで、更に丸の内を活気あるビジネス・交流拠点としていくことを目指します。



（日本創生ビレッジ担当者）



2 固有文化をいかしたまちづくりへの展開

都市の魅力を世界に発信する要素の一つに、その都市特有の文化があります。東京には、古くからの伝統文化からミシュランからも評価される豊かな食文化まで、多様な文化が息づいています。ここでは、東京のまちが有する文化資源に着目し、まちづくりと連動した取組について紹介します。

◆ 東京に存在する個性的なまち



三菱UFJリサーチ&
コンサルティング(株)
太下義之 氏

○ 東京のまちの文化的特徴とは

～三菱UFJリサーチ&コンサルティング 太下氏に聞く～

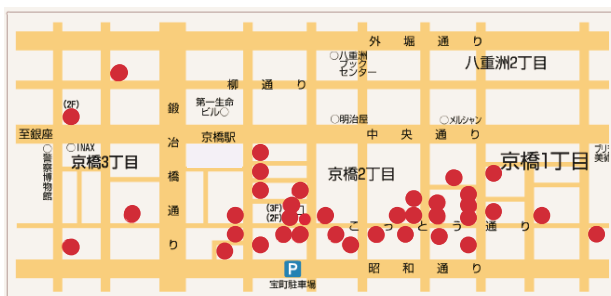
東京には、京橋・日本橋の骨董通りや神保町の本屋など、特定の業種が集まって特色を作っているまちが多くあり、その一つ一つが都市の魅力を作り出しています。

現在、アジア諸都市でも文化振興事業に大量の投資を行っており、その勢いは東京に迫りつつあります。東京がアジア圏のハブとなるためには、東京のまちが持つ個性的な魅力を世界に積極的に知らせていくとともに、都市の文化を牽引する『人』が活躍できる場をつくっていくことがキーポイントとなっていくでしょう。

◆ 個性的なまちを歩く

京橋・日本橋の古美術店の集積

京橋・日本橋周辺では、企業の応接室に飾るような古美術や骨董品のニーズの高まりを受けて、京橋一丁目から日本橋三丁目周辺にかけて約 150 店もの古美術店が集積してきました。特に、京橋一・二丁目通りは「骨董通り」と呼ばれ、親しまれています。



● 京橋周辺のアートスポット（一部）

中央区観光協会「日本橋・京橋美術骨董通りマップ」より作成



骨董通りのまちなみ

世界一の本のまち、神保町の「古書店街」

江戸時代、神保町は武家屋敷の町でしたが、明治時代以降、大学や各種学校などの教育施設が多く建てられ、近くの神田公園地域にも東京大学、高等商業学校（現在の一橋大学）、学習院大学等の教育施設が多く立地したため、印刷・製本業、古書店が集積しました。神田神保町オフィシャルサイトによると、現在、神田神保町には古書店が約 180 店もあり、世界一の本のまちとなっています。



千代田区観光協会「千代田まちマップ」より作成

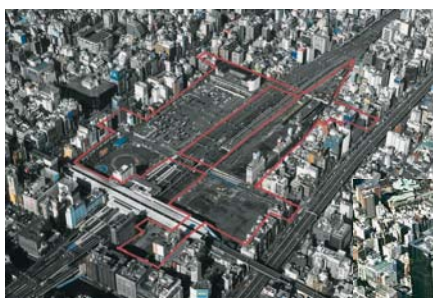


神田古本まつり

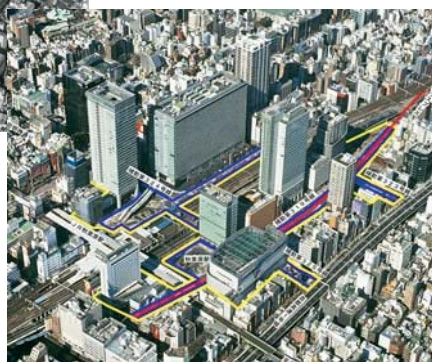
秋葉原の「電気街」と新産業拠点

秋葉原は、戦後に集まったラジオ部品販売店から次第に拡大して、高度成長期には全国的に有名な電気街に成長し、その後も音響機器やパーソナルコンピュータなど時代のニーズに応じて発展しました。現在では、アニメコンテンツなどソフト関連の店舗も集まり、日本ならではの文化発信地として、東京を代表する観光地の一つとして有名になっています。

さらに、神田市場跡地などで東京都が実施した土地区画整理事業を経て 2006 年にオープンした秋葉原クロスフィールドには、IT 企業や大学などが多く集積し、新産業の発信拠点となっています。



平成 9 年 秋葉原駅周辺



平成 19 年 秋葉原駅周辺



●秋葉原駅周辺の電気商店（一部）
秋葉原駅前商店街振興組合資料より作成

◆ 東京の都市づくりと文化発展



ニッセイ基礎研究所
吉本光宏氏

○ アーティストの住みたいまちを目指して

～ニッセイ基礎研究所 吉本氏に聞く～

東京のイメージとして思い浮かぶのは、多様な文化が混在しており、常に新しい文化が生まれる新陳代謝の活発な都市だということです。

そうした東京の強みを、今後の都市づくりの中で強化するためには、アーティストが住みたいと思うまちにしていく視点が大切です。世界の有能なアーティストがまちに住まうことにより、東京ならではの先進的な芸術表現が生まれ、それが産業や経済にも波及していきます。アーティストが住みたいまちをいかに形成するかが、東京が世界に誇る文化都市になるためには必須の要件となるでしょう。

◆ 「歩きやすいまち」から「歩きたいまち」への取組

東京都は、都市開発に伴うオープンスペースの整備や歩道のバリアフリー化など「歩きやすいまち」に向けた取組を進めてきました。今後は更に芸術文化や観光の視点も取り入れ、訪れた人が「歩きたい」と感じるまちづくりを進めていくことが、新たなにぎわいや交流を生み出すキーポイントとなっていきます。ここでは、そのような「歩きたくなるまち」に向けた取組を紹介します。

東京のファッションの発信拠点、表参道

もともと神宮外苑から明治神宮へ向かう由緒ある参道であった表参道は、現在では美しいケヤキ並木の沿道に洗練されたブランドショップやカフェなどが立ち並び東京のファッションストリートとなりました。かつて表参道のランドマークとして親しまれた同潤会アパートは、一部が保存されながらも、独創的な外観を持つ「表参道ヒルズ」へと変化を遂げ、世界が注目するファッションやカルチャーの発信拠点になっています。

2012年9月には、雑誌『VOGUE』が主催するグローバル・ファッション・イベント“FASHION'S NIGHT OUT”が開催されました。世界19カ国で同時開催されたこのナイトショッピングイベントでは、表参道を始め、原宿・青山周辺の約470店舗が参加し、国内外にファッション拠点性をアピールしました。



表参道のケヤキ並木

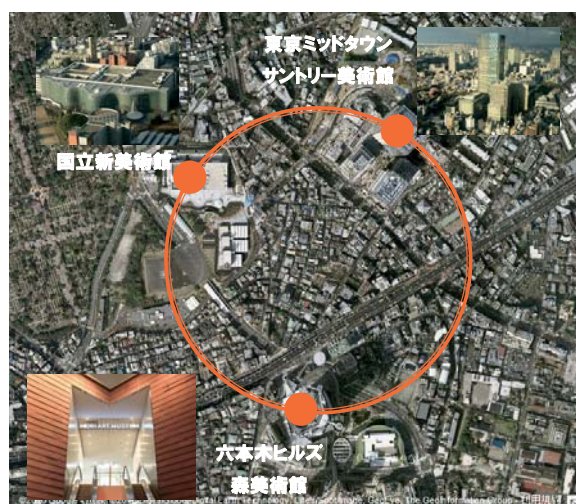


表参道ヒルズ

新たなアートクラスタ六本木で催す“六本木アートナイト”

六本木には、六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT 及び国立新美術館が駅周辺の徒歩圏内に集中しており、新たなアートクラスタとしてにぎわいを呼んでいます。

さらに、これらの施設や美術館に加え六本木商店街などを舞台に、アート作品や音楽、映像、パフォーマンスなどの作品でまちを埋め尽くす「六本木アートナイト」が 2009 年より開催されています。2013 年は、『TRIP→今日が明日になるのを目撃せよ。』をテーマに3月に開催され、アート作品の展示など様々なプログラムが行われました。こうした地域と結びついたアートイベントにより、六本木の文化的イメージ向上を通じて、まちへの求心力が増えています。



六本木アートナイト 2013
メインビジュアル



六本木アートナイト 2012
(2012 年の様子)

(C) 2012 六本木アートナイト
実行委員会

丸の内仲通りから東京駅新駅舎へ続くにぎわい

ビジネス中心地の都心丸の内も、現在では週末にもぎわうスポットとなっています。沿道のオフィスビルにブランドショップやオープンカフェが立地するとともに、仲通りに植栽やアート展示が行われることで、歩いて楽しいまちなみを実現しました。2012 年 10 月から 2013 年 2 月にかけて、「丸の内イルミネーション 2012」として仲通り沿いの街路樹約 231 本が約 101 万の LED 電球で飾られるイベントが行われました。

さらに、2012 年 10 月には、国指定重要文化財である東京駅丸の内駅舎の焼失していた 3 階部分及び南北 2 か所の丸いドーム屋根部分を復原し、大正時代の創建時の姿に戻す工事が竣工しました。リニューアルした観光スポットを加え、丸の内周辺が、更なるにぎわいを見せています。



丸の内イルミネーション 2012

資料提供 丸の内イルミネーション実行委員会



東京駅丸の内駅舎（復原後）



ユネスコ「創造都市ネットワーク」とは？

「創造都市ネットワーク」という取組を御存知ですか？「創造都市ネットワーク」とは、独自の文化と産業でまちを元気にしている都市が連携して文化の多様性を保護するため、2004年にユネスコが創設した都市間ネットワークで、日本では、クラフト&フォークアート分野で金沢市、デザイン分野で名古屋市と神戸市の計3都市が認定されています。

クラフト&フォークアート分野において日本で最初の登録市である金沢市は、工芸のビジネス化を推進するための見本市「おしゃれメッセ」の開催や、伝統文化（工芸、芸能、食など）を体験できる「クラフト・ツーリズム」など様々な取組を進めています。こうした取組により、国内外に対する魅力の発信や交流・連携を推進し、また市民にとってもまちの誇りや愛着につながっています。

分野	登録都市
文学	エジンバラ、メルボルン、アイオワシティ、ダブリン、レイキャビク、ノリッチ
映画	ブラッドフォード、シドニー
音楽	セビリア、ボローニャ、グラスゴー、アントワープ、ポゴタ
クラフト&フォークアート	サンタフェ、アスワン、 金沢 、利川、杭州
デザイン	ブエノスアイレス、ベルリン、モントリオール、 名古屋 、 神戸 、深圳、上海、ソウル、サンテティエンヌ、グラーツ、北京
メディアアート	リヨン
食文化	ポパヤン、成都、エステルズンド、全州、

※2012年5月現在
UNESCO「Creative Cities Network」HPより作成



おしゃれメッセ2012



金沢 金箔工芸品

資料提供 金沢市

3 世界に先駆けた環境先進都市の実現

地球温暖化など世界規模での環境問題が深刻化する中でまちづくりを進めていくには、環境負荷の低減を図り、低炭素型都市へと転換していく必要があります。東京都市圏では、民間企業や市民団体が行政と連携して緑の保全・創出や都市活動に伴うエネルギー効率化に積極的に取り組んでいます。

◆ 市民意識の高まりを捉えた環境保全の取組へ

○ 行政・企業・市民のパートナーシップを目指して

～セブン-イレブン記念財団に聞く～

NPOをはじめとする市民活動の力は、いまや自然保護活動をはじめとする地域の環境保全において大きな役割を果たしています。セブン-イレブンでは、ごみ拾い活動による地域美化を契機として環境活動への取組を開始し、現在では多くのNPOへの支援も行っています。

今後、市民活動への支援は、企業と行政が協働して担っていくことになるでしょう。この際、支援の実効性を上げるためには、それぞれの得意分野をいかしていくことが重要です。例えば、セブン-イレブンの強みは数多くのお店を通したお客様との接点です。今後、店頭での募金活動を基盤に、NPOへの支援を含めたさまざまな社会貢献活動に取り組んでいきたいと思っています。

NPOにおいても、これからは単に企業や行政に支援を求めるのではなく、共に地域をつくるパートナーであるよう、市民意識の高まりを捉え、地域と一体となった活動を展開していくことが、時代として求められていると思います。



緑と共にある暮らしを考えるセミナー
～エメラルド・ネックレス in Tokyo～
(東京の緑を守ろうプロジェクト(下記参照)の取組の一つ)

◆ 民間基金と連携した緑の保全

東京の緑を守ろうプロジェクト

東京都では、平成22年2月にセブン-イレブン記念財団と協定を締結し、東京の緑の保全等に取り組む市民団体の支援を行う「東京の緑を守ろうプロジェクト」を開始しました。

このプロジェクトでは、シンポジウムやセミナー等の開催とともに、東京の緑を守り育てる市民団体の活動費用を助成する「東京の緑を守ろうプロジェクト助成」を実施しており、これまでに53の市民団体の活動を支援しています。



◆ 開発が生み出す都市環境改善の取組

環境技術ショーケース 「エコ・ミュージアム」

都心部の都市再生特別地区では、開発事業と連動して環境先進都市を先導する取組が積極的に行われています。例えば、2012年10月に竣工した大手町フィナンシャルシティの一角には、先進的な環境技術を紹介し、来街者の環境意識を啓発する「エコ・ミュージアム」がオープンしました。

この「エコ・ミュージアム」では、屋上緑化技術を利用した庭園、エリア内発電量や気象情報などを見ることができるサロンスペースなどとともに再生可能エネルギーを利用した実証実験場「アーバン・エコ・ファーム」が展示されています。この実証実験場では、ビルの中水を利用する促成技術やトリ・ジェネレーション（コージェネレーションシステム¹による熱、電気利用に加え、排気されるCO₂を植物栽培に利用）などの仕組みを取り入れた都市型植物工場の取組を紹介しています。

これらの取組を通じて、「エコ・ミュージアム」が人の集まる場所として機能し、まちのコミュニティを創出することを目指しています。



エコ・ミュージアム 入口



アーバン・エコ・ファーム

資料提供 (社)大丸有環境共生型まちづくり推進協会

カーボン・ゼロからZEB² の実現へ

地球レベルでの温暖化や都市のヒート・アイランド現象の問題が取りざたされる今日、オフィスビルから排出されるCO₂の削減は東京の大きな課題の一つです。

この課題への取組として、2012年5月に竣工した清水建設本社では、先進的な環境技術の導入と効率的な施設運用によって建物のCO₂排出量ゼロを目指す取組が行われています。特に、設置されている地域冷暖房施設の排熱を利用する空調システムや照明ごとにコントロールする照明設備、断熱性能の高い外装システムなどの技術導入に力を入れて、設備面で約62%のCO₂削減を実現しています。

今後、自社のCDM³（クリーン開発メカニズム）で創出した排出削減枠と合わせて、2015年にはZEBの実現を目指しています。こうした持続可能なエネルギー循環システムによって、世界にアピールする環境先進都市東京の魅力が高まることが期待されます。



清水建設 本社

資料提供 清水建設(株)

¹ コージェネレーションシステム：発電とともに、発生した熱を冷暖房や給湯などに有効利用するシステム。70～80%に達する高いエネルギー利用効率を実現する。

² ZEB：ゼロ・エネルギー・ビルのこと。年間の一次エネルギー消費量が正味でゼロ又はおおむねゼロとなる建築物を指す。

³ CDM：先進国が削減目標を達成するために利用することが認められた仕組み。他国から削減分を購入する仕組み（排出量取引）と、他の国で実施される温暖化対策プロジェクトへの投資を通じてその削減分を自国での目標達成に算入することができる。

◆ スマートハウス⁴、スマートシティ⁵への取組

TBWA博報堂による「ミライニホン」プロジェクト

TBWA 博報堂は、HEMS（ホームエネルギー管理システム）を始め、太陽光発電、浄水システムなどを取り入れて、既存のインフラから完全独立可能なスマートハウスである「ミライニホン」を提案しています。

「ミライニホン」は、生活者のニーズに企業の持つ技術力を組み合わせて具現化したプロジェクトです。この取組は、既存インフラからの独立（オフグリッド対応できる）を促し、通常のライフラインが途絶えても安心して生活できる住環境の実現を目的としています。それを支える技術力の集合体が「ミライニホン」ハウスです。

ミライニホンは、2012年8月から実用化され、販売が開始されました。



資料提供 TBWA 博報堂

柏の葉スマートシティの取組

千葉県柏市にある柏の葉キャンパス駅周辺では、豊かな自然環境と学術施設が集積する地域性を利用してスマートシティの実現への取組が行われています。

計画地では、近接するショッピングセンターに蓄電池や複合型コージェネレーションシステムなどを備えてエネルギーの複線化を実現し、平常時の電力平準化と緊急時の電力の継続供給を目指しています。

また、AEMS（エリアエネルギー管理システム）を設置して計画地全体のエネルギー需給状況の見える化を図り、エネルギー需給を一元管理するとともに、管理状況を市民の間で共有して電力逼迫時に需要抑制を喚起するなど、ピークシフトや停電回避に向けた対策を行います。

駅前複合開発の完成は2014年を予定しており、将来的にまち全体でCO₂排出量削減率60%を実現することを目標としています。



柏の葉スマートシティ（イメージ）



エリアエネルギー管理システム

資料提供 三井不動産(株)

⁴ スマートハウス：太陽光発電や燃料電池などの創エネ、高气密や高断熱などの省エネ、蓄電池や電気自動車などの蓄エネを組み合わせ、ホームエネルギー管理システム（HEMS）を用いて、電気や熱などのエネルギー需給を最適に管理する住宅のこと。

⁵ スマートシティ：分散型発電システム、再生可能エネルギー、電気自動車、高効率なビル、家庭の電力使用量の見える化などの技術を使って、都市全体のエネルギー構造を高度に効率化した都市のこと。